平成16(2004)年度

市内遺跡発掘調査報告書

東囲遺跡
猿ヶ馬場B遺跡
前山遺跡
小丸山遺跡ほか

新潟市埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は平成16（2004）年度に新潟市内で実施した埋蔵文化財調査の報告書である。

2　市内遺跡調査（現地発掘調査や調査資料の整備・出土遺物整理）にかかる経費は、国庫及び県費の補助金交付を受けて実施した。

3　調査は新潟市教育委員会が主体となり、新潟市総務局国際文化部歴史文化課埋蔵文化財センターが実施した（補助執行）。

4　調査で得た資料は、埋蔵文化財センターが一括して保管している。

5　調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関から指導・協力をいただいた。

目　次

Ⅰ　平成16年度管内遺跡調査の概要……1

Ⅱ　市内遺跡発掘調査……5

1　東囲遺跡範囲等確認調査及び隣接地試掘調査……5

2　猿ヶ馬場Ｂ遺跡範囲等確認調査……9

3　前山遺跡範囲等確認調査……10

4　小丸山遺跡範囲等確認調査……11

5　俵柳地区試掘調査……12

6　赤塚地区試掘調査……13

7　牡丹山地区試掘調査……14

8　小針地区試掘調査……14

9　亀貝地区試掘調査……15

10　鳥原地区試掘調査……16

11　木工新町地区試掘調査……16

12　大潟地区試掘調査……17

13　逢谷内地区試掘調査……18

14　鳥屋野地区試掘調査……19

15　上木戸地区試掘調査……20

16　河渡地区試掘調査……21

17　城山遺跡立会調査……22

Ⅰ　平成16年度管内遺跡調査の概要

1　調査体制

調査主体　新潟市教育委員会　　教育長　堀川　武

総　　括　総務局国際文化部　歴史文化課

課　　長　田中純夫

課長補佐　長谷川庄司

同企画・文化財係　　係　　長　河内巳津雄

廣野耕造（埋蔵文化財センター兼務）

事 務 局　埋蔵文化財センター　所　　長　坂井則夫

調 査 員　渡邊ますみ　　嘱託職員　森　良子

諫山えりか　　土佐夕美子

朝岡政康

2　調査概要

今年度は範囲等確認調査４件、立会調査16件、試掘調査13件の計33件の調査を実施した。概要一覧を表２に示した。なお文化財保護法57条の２及び57条の３に係る届出・通知は29件であった（平成17年２月28日）。

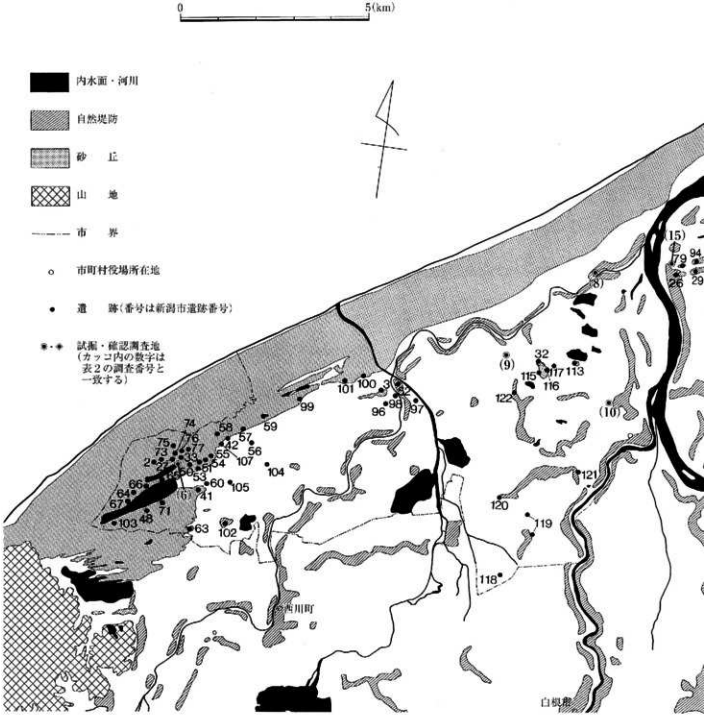
3　試掘調査について

新潟市は、砂丘地と自然堤防などの微高地を除くと市域の大半が海抜０ｍ前後の沖積地である。新潟市の遺跡は概ねこの砂丘地や自然堤防上に立地している。しかしながら、近年新潟県内では、これまで遺跡が無いと考えられていた沖積地から遺跡が発見される例がしばしば見られ、本市においても亀田郷と呼ばれる沖積地において東囲遺跡(114)のように立地している遺跡が発見された。このことは、現在の地形に至るまでには様々な地形変動・気候変動が起きていたことを示しているのであり、実際に遺跡が発見されることによって過去そこが生活可能な状況であったことが新たに分かる、ということが起きている。沖積地では、遺跡が存在していたとしても地中深く埋没しているため、遺物が地表面に現れておらず、踏査による地表面観察では遺跡が発見し難い、ということがあり掘削による調査が有効な手段である。

このようなことを踏まえ、工事中の遺跡の不時発見を防ぐこと、新遺跡を発見することを目的に、庁内の関係各課、民間事業者の理解と協力を得て試掘調査を実施した。試掘調査を実施できたことによって調査地における遺跡の有無や地層の堆積状況など理解することができ、このような調査履歴を増やすことによって遺跡の理解をさらに深めることができるものと考える。

4　調査方法

調査は重機（バックホー）による掘削調査が主体である。重機は調査地の状況に合わせ、0.1～0.7m^{3}を使用した。市内の低地では地表面下１ｍほどで湧水するので排水用のポンプ・小型発電機を使用した。掘削深度は概ね２ｍを目途としたが、状況に合わせて深く調査した場所もある。



遺跡No.	名　称	時　代
1	中　山	縄文・古墳・奈良・平安
2	荒　町　A	縄文
3	石　船　山	奈良・平安・鎌倉
4	物　見　内	奈良・平安
5	東西大田代	奈良・平安
6	熱　海	奈良・平安
7	堂　山　A	縄文・奈良・古墳・奈良・平安
8	長　者　谷	奈良・平安
9	赤　石　山	奈良・平安
10	金　堂　山	縄文・奈良・平安
11	薬　山	奈良・平安
12	堂　山	奈良・平安・鎌倉・平安
13	大　山	平安
14	西 り 山 A	平安
15	猿ヶ馬場 A	平安・室町
16	大　瀬	平安
17	河　津　堀	平安
18	ヴン化学前	奈良・平安
19	神明七面	平安

遺跡No.	名　称	時　代
20	寺　山	平安
21	薬　仁　山	平安・中世
22	河　山	平安
23	鳥　山	平安
24	上　谷　堂	平安
25	藤　上　山	平安
26	三　中　武　中	平安・中世
27	赤塚新光寺	平安
28	風　　山	縄文・古墳・平安・鎌倉
29	鳥　屋　山	鎌倉・室町
30	竹　　屋	室町
31	石　屋　敷	奈良・平安・室町・江戸
32	浦立城跡	奈良・平安・中世
33	神　　山	縄文・弥生
34	猿ノ水尻	平安
35	鶴　　越	平安
36	雲　　池	平安
37	前　　山	平安
38	西　　野	平安

遺跡No.	名　称	時　代
39	虎　　塚	平安
40	鎧 岩 屋 敷	平安
41	天　　狗	縄文・古墳・室町
42	本　　山	平安・鎌倉
43	赤　　塚	古墳
44	北　　塚	平安
45	天 狗 の 塚	
46	北　　山	平安
47	浦 出 石 仏	弥生
48	北 出 畑 A	縄文・平安
49	若 子 ガ 山	不明
50	屋　敷　浦	弥生・奈良・平安
51	屋　敷　前	古墳・平安・平安
52	高　　山	不明
53	新　　田	弥生・平安・中世・室町・江戸
54	長　者　屋	縄文・平安・中世
55	ヤ マ ヤ ヤ	縄文・弥生・中世
56	笠 金 野 毛	鎌倉・室町
57	民　宿　横	奈良・室町

遺跡No.	名　称	時　代
58	本 山 東 岡	縄文
59	尼　　地	鎌倉・室町
60	鶴　金　堂	縄文
61	表 ミ 台 B	平安
62	鶴ヶ島 D	鎌倉～江戸
63	取　　田	平安・中世
64	上 谷 内 A	平安
65	鶴　松　橋	平安
66	上　　山	平安
67	上 谷 内 B	平安
68	矢 着	平安
68	矢着、No.68内	
69	矢着、No.68内	
70	矢着、No.71内	
71	北 翁 原 B	平安
72	矢着、No.71内	
73	角　屋　敷	平安
74	ツ ル 子 A	平安
75	蛇　塚　池	平安
76	ツ ル 子 B	平安

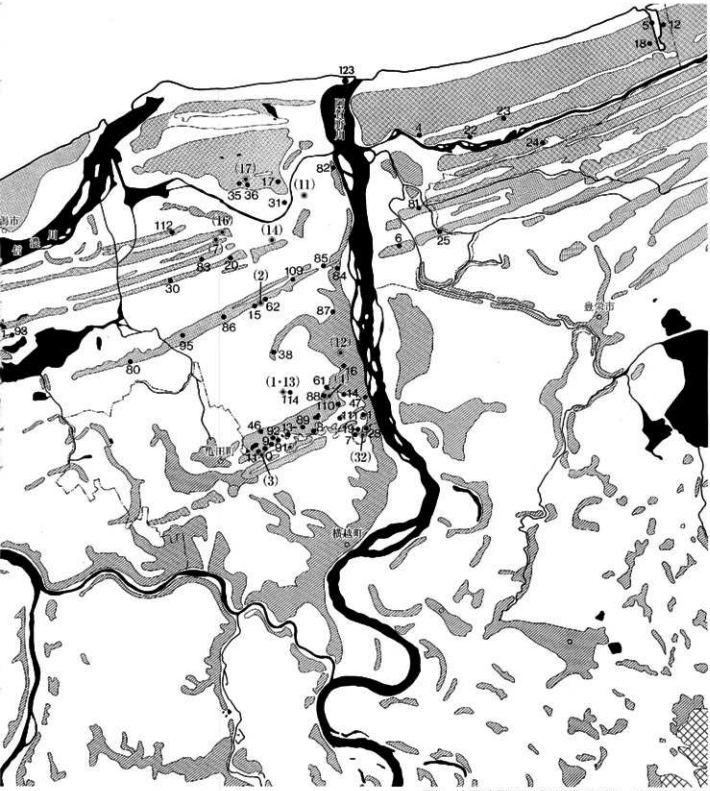


図１　新潟市周辺の地形と遺跡（S＝1/100,000）

遺跡No.	名称	時代
77	ツキノイ	縄文・平安
78	矢蒲	Na14内
79	鳥屋野	中世
80	石塚	中世
81	法華塚	江戸?
82	寺島城の石塔	近世
83	竹塚西	平安
84	本町駅前	中世
85	石崎	縄文・近世・古墳・平安・中世
86	下塩	平安・中世
87	江口遺跡	
88	小丸山遺跡	縄文・平安・中世・近世
89	名目貝塚	平安
90	矢蒲	Na13内
91	清水谷	平安
92	大鷲塚	平安・中世
93	女池駅前	平安
94	愛宕の塚	中世・近世?
95	石山	中世

遺跡No.	名称	時代
96	沢根	中世
97	高田新田	中世
98	高田西	中世
99	蓮潟	中世
100	内野海道A	中世
101	内野海道B	中世
102	横越駅前	鎌倉・室町
103	昼寝	中平安
104	結城中島遺跡	中世
105	国道49号線遺跡	中世
106	東新潟駅北遺	中世
107	ヤマモト遺跡	中世
108	北潟	縄文・金属・平安・中世
109	町屋の石塔	中世
110	松崎	中世
111	松浜駅前	中世
112	小戸	縄文・金属・平安・中世
113	野環	縄文・中世
114	東野	縄文・弥生・古墳

遺跡No.	名称	時代
115	横堤	縄文・古墳・金属・平安
116	横堤	古墳・金属・平安
117	梅堤	縄文・古墳・金属・平安
118	辻ノ塚	鎌倉初期～室町
119	原海道	平安・鎌倉初～室町
120	本町	縄文・中世
121	大畑	江戸
122	寺石古門屋敷	江戸
123	河賀野川河口	縄文・古墳・平安・中世

表１　新潟市の遺跡（平成16年２月28日現在）

調査種別	調査番号	遺跡名（遺跡番号）または地名	調査事由	57条の2・3通知（事業者提出書類）	相談委からの通知（通知の発出・受信）	58条の2（調査着手届）	調査期間	調査結果及び遺跡の取扱い
確認調査	1	東囲遺跡（114）	民間開発	16.03.04	16.07.06	16.04.09	16.04.12～16.04.23	この確認調査によって東囲遺跡の北西側の範囲が明らかとなった。事業者との協議の結果、遺跡は現地保存されることとなった。
	2	狭ヶ馬場B遺跡（62）	店舗建設	16.03.18	16.05.25	16.04.16	16.04.26	調査地は狭ヶ馬場B遺跡の隣接地である。遺跡は当該地まで拡がっていないことが確認された。また遺跡が立地する砂丘が当該地において、既に上層部が削平されていることが確認された。
	3	前山遺跡（11）	資材置き場改修	16.04.12	16.06.03	16.05.14	16.05.19	調査地は前山遺跡の隣接地である。遺跡は当該地まで拡がっていないことが確認された。また遺跡が立地する砂丘は当該地では地表面下2m以下まで埋没していることが確認された。
	4	小丸山遺跡（88）	個人住宅建設	16.10.07		16.11.10	16.11.11	調査地は小丸山遺跡の周知範囲内である。調査の結果、遺物が出土し、遺物包含層も確認された。当該地が遺跡であることが確認された。住宅建設は盛土をして行われるが、附随する駐車建設の基礎工事にあたって12月6日に遺跡への影響を確認するため立会調査を実施し、工事が遺跡に影響を与えていないことを確認した。
試掘調査	5	俵柳地区試掘調査	新市民病院建設			16.06.17	16.06.17・18・21	遺跡は発見されない。
	6	赤塚地区試掘調査	農業関連施設建設			16.06.24	16.06.25	遺跡は発見されない。
	7	牡丹山地区試掘調査	道路建設			16.07.02	16.07.02	遺跡は発見されない。
	8	小針地区試掘調査	宅地分譲			16.09.06	16.09.06	遺跡は発見されない。
	9	亀貝地区試掘調査	農道整備			16.10.05	16.10.12	遺跡は発見されない。
	10	鳥原地区試掘調査	農道整備			16.10.05	16.10.13	遺跡は発見されない。
	11	木工新町地区試掘調査	集合住宅建設			16.10.14	16.10.14	遺跡は発見されない。
	12	大潟地区試掘調査	学校建設予定地			16.11.18	16.11.29～16.12.04	遺跡は発見されない。
	13	茅宿谷地区試掘調査	民間開発			16.11.18	16.12.03～16.12.10	遺跡は発見されない。
	14	逢谷内地区試掘調査	宅地分譲			17.01.19	17.01.19	遺跡は発見されない。
	15	鳥屋野地区試掘調査	宅地分譲			17.01.20	17.01.20	遺跡は発見されない。
	16	上本戸地区試掘調査	民間開発・宅地造成			17.01.22	17.01.31	遺跡は発見されない。
	17	河渡地区試掘調査	宅地造成			17.02.14	17.02.15～17.02.18	遺跡は発見されない。
立会調査	18	東囲遺跡（114）	市場建設	16.04.01			16.04.28	
	19	狭ヶ馬場B遺跡（62）	個人住宅擁壁建設	16.04.09	16.04.19		16.05.18	
	20	金塚山遺跡（10）	舗装工事・側溝布設	16.04.23	16.07.26			
	21	丸山遺跡（13）	個人住宅建設	16.05.18	16.06.30		16.05.06／16.06.11	
	22	南浦原遺跡（108）	側溝布設	16.05.27	16.06.14		16.07.07	
	23	坂田遺跡（63）	排水管設置・集水桝設置	16.05.27	16.06.14		16.07.07	
	24	木山遺跡（42）	配水管布設	16.06.01	16.06.29			
	25	木山監所遺跡（58）	配水管布設	16.06.01	16.06.24		16.06.01／16.06.14	
	26	神山遺跡（33）	配水管布設	16.06.01	16.06.24		16.06.03／16.06.16	
	27	石仏山遺跡（80）	下水道管布設	16.06.08	16.06.30		16.07.07	
	28	東囲遺跡（114）	基礎杭工事	16.06.30	16.07.13		17.01.17	
	29	古屋敷遺跡（31）	店舗建設に伴う地盤改良	16.10.05	16.10.21			
	30	六地山遺跡（3）	排水フリューム管布設	16.11.24	16.12.13		17.01.21	
	31	六地山遺跡（3）	倉庫建設	16.12.10			16.12.21	
	32	城山遺跡（28）	公園建設	17.01.12			17.01.26～17.01.29	
	33	高山遺跡（52）	個人住宅	17.02.21			17.02.21	土師質土器細片が少量出土。時代・時期不明

表2　平成16年度　埋蔵文化財調査一覧

Ⅱ　市内遺跡発掘調査

1　東囲（ひがしかこい）遺跡範囲等確認調査及び隣接地試掘調査（表2－1・2－13）

調 査 地：茗荷谷字東囲ほか　　調査面積：240㎡（調査対象面積約10,080㎡の約2.4％）

調査期間：平成16年４月12～23日　　調査担当：朝岡政康　調査員：諫山えりか

遺跡の概要　東囲遺跡は、平成11年に市の新卸売市場建設地における試掘調査及び確認調査によって新たに発見された遺跡である。約40,000㎡が周知範囲である。翌12年に市道建設部分8,875㎡について本格調査を実施し、古墳時代前期の集落跡が発見された。遺跡は亀田郷と呼ばれる越後平野の代表的な沖積地に位置するが、亀田砂丘（新砂丘Ⅰ）が形成されたときの海底砂州上に立地していると推定されている。本格調査の結果、古墳時代前期以降は生活不可能な環境になったものと考えられている。

調査に至る経緯　民間の物流施設建設計画地に東囲遺跡が一部係っているので、文化財保護法に基づき発掘届が提出された。事業計画地に係っている遺跡の範囲は平成11年の確認調査の時は調査しておらず、推定範囲でしかなかったため、遺跡の北西部分の範囲を明らかにすることと遺跡の保護と事業計画との調整を図るために範囲等確認調査を実施することとなった。調査地の現況は水田であった。

調査結果　２×３ｍの調査坑を32箇所、２×５ｍを１箇所、２×45ｍを１箇所調査した。土層の堆積状況は本格調査の際確認された層序と全く同じであった。遺物包含層（Ⅵ層）は浅いところでは地表面下約0.5ｍほどで、深いところでは地表面下約１ｍで確認された。遺構は土坑1基（SK01）・溝状遺構（SD01）・性格不明遺構１基（SX01）を検出した。すべて1Tで確認した。遺構直上から土器がまとまって出土したが、遺構内遺物は検出されなかった。遺物は1T・2T・ロングトレンチにおいて検出した。遺跡の範囲は土器が出土した範囲を括った結果、当初の推定範囲より狭くなった。調査結果をもとに事業者と協議を行い、事業地全体に盛土を施した後、遺跡部分は駐車場として利用されることとなった。遺跡が現地保存されることとなったので、事業に先立つ遺跡調査はこれで終了となった。

隣接地試掘調査（表2－13）

調 査 地：茗荷谷地内　　調査面積：174 ㎡（調査対象面積約22,281の約0.8％）

調査期間：平成16年12月３日～10日　　調査担当：朝岡政康

調査地の概要　調査地は東囲遺跡範囲確認調査地の隣接地である。沖積地であるが東囲遺跡が立地する砂層が確認されている。調査時は水田であった。

調査に至る経緯　調査地は上記で報告した事業と同一事業である。今年度初頭に行った東囲遺跡範囲等確認調査によって東囲遺跡の北西側の範囲が明らかとなり、事業者と遺跡の保護について協議し現地保存について合意したが、残る事業予定地内における遺跡の有無について試掘調査依頼を受けていた。事業者が用地を取得した段階で調査を実施することとなった。

調査結果　２×３ｍの調査坑を29箇所設定した。東囲遺跡が立地する砂層がどれくらい拡がるのか、また未発見の遺跡の有無に焦点を当て調査を行った。東囲遺跡が立地する砂層は45T～49Tの田面から北側に向かって急激に落ち込んでいた。砂層が落ち込み始めると同時に遺物包含層相当のⅥ層はほとんどの調査坑において確認できなくなる。また25～33Tを設定した山面では砂層が地表面下0.2～0.5ｍほどで確認できⅥ層もほとんどの調査坑で確認できた。しかしどの調査坑からも遺構・遺物は検出されなかった。当該地に遺跡がないことが確認された。また砂層の広がりについても概略を確認することができた。

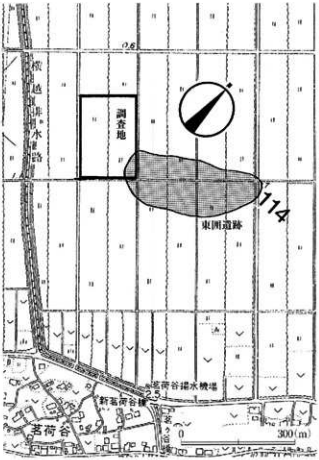
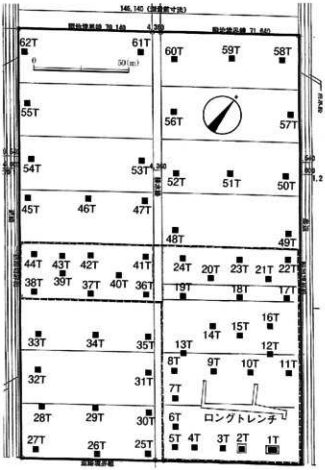


図2　調査地位置図（S＝1/10,000）



破線部内：4月度調査区域　■：遺物出土調査坑

図3　調査坑配置図（S＝1/2,000）

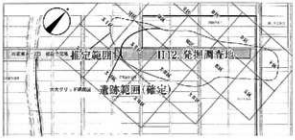
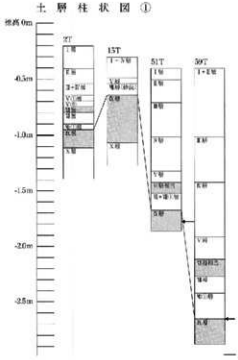


図4　調査で明らかとなった東囲遺跡の範囲（S＝1/10,000）

I層～IV層	：水田耕作土、床土、灰白色粘土、褐色粘土（腐食植物多混）
V層	：灰白色粘土
VI層	：黒褐色粘土混砂～暗褐色粘土（遺跡に考える場所ではこの層が遺物包含層）
VII層	：青灰色粘土（腐食植物混）
VIII①層	：灰白色～黄灰色砂混粘土
VIII②層	：灰白色～黄灰色粘土混砂
IX層	：黒褐色砂
X層	：黄灰色砂（基盤層）
XI層	：灰色砂（基盤層）

表3　土層注記



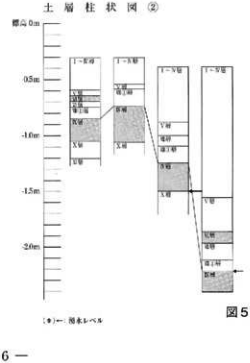


図5　土層柱状図

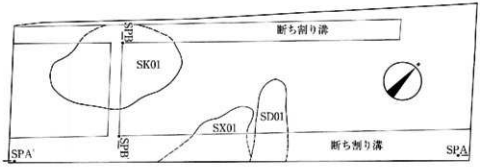


図6　1T遺構平面図（S=1/40）

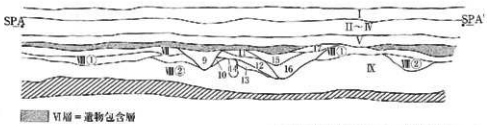


図7　SD01及びSX01にかかる土層堆積状況図（S=1/40）

図8　SK01にかかる土層堆積状況図（S=1/40）

1	暗灰褐色	砂混粘土	φ5mm炭化物粒少混
2	淡褐色	粘土混砂	しまりやや強
9	暗暗褐色	砂混粘土	しまりやや強　φ3mm炭化物粒少混　土器片出土
10	暗褐色	砂混粘土	しまりやや強
11	黒褐色	砂混粘土	φ2～3mm炭化物粒少混
12	黒褐色	砂混粘土	しまりやや強
13	暗褐色	砂混粘土	しまりやや強
14	黒褐色	粘土混砂	粘性弱
15	黒色	砂混粘土	しまり弱　φ5～7mm炭化物粒やや多い
16	暗暗褐色	砂混粘土	しまりやや強　φ3mm炭化物粒少混
17	黒褐色	砂混粘土	しまり弱　φ5mm炭化物粒少混

表4　土層注記（Ⅰ～Ⅹ層については土層柱状図を参照）

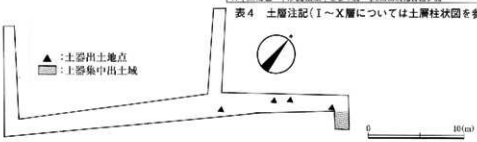


図9　ロングトレンチ土器出土状況図（S=1/400）

写真1　調査地（北東～）

写真2　1T遺構検出状況（左からSK01・SX01・SD01）

写真3　SK01直上遺物出土状況（南～）

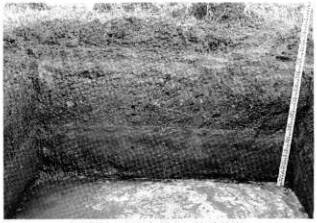


写真7　49T東壁土層堆積状況

写真4　ロングトレンチ完掘状況（北～）

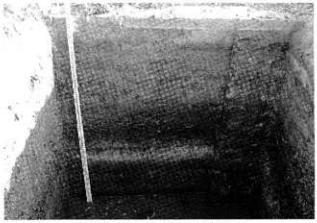


写真8　60T西壁土層堆積状況

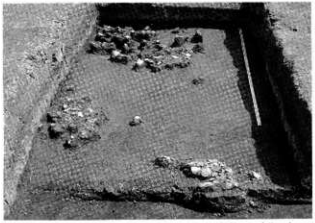


写真5　ロングトレンチ遺物集中出土状況（北～）

写真9　右：SK01直上土器　左：ロングトレンチ内集中出土土器（約¼）

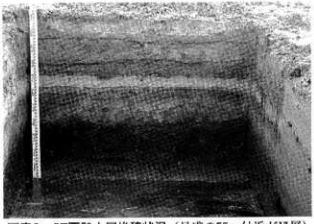


写真6　2T西壁土層堆積状況（目盛の55cm付近がⅥ層）

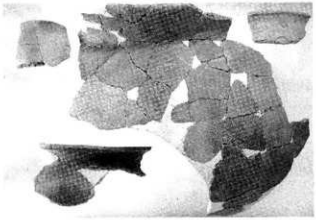


写真10　ロングトレンチ内集中出土土器（約¼）

2　猿ヶ馬場B遺跡範囲等確認調査（表2－2）

調 査 地：猿ヶ馬場２丁目68-5ほか　　調査面積：18㎡（調査対象面積694㎡の約2.6％）

調査期間：平成16年４月26日　　調査担当：朝岡政康

遺跡の概要　猿ヶ馬場B遺跡は石山砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ－２列に対比）の砂丘列南斜面に立地し、周知範囲は約1,400㎡である。土師器・須恵器の小片、中世・近世の陶磁器片が散布していることが確認されている。

調査に至る経緯　貸店舗建設予定地が猿ヶ馬場B遺跡に隣接しているため、文化財保護法に基づいて発掘届が提出された。猿ヶ馬場B遺跡は過去に調査履歴がないことから、範囲等確認調査を実施し遺跡の内容を確かめることとなった。調査にあたって事業者から掘削機械の提供を受けた。調査地の現況は家屋解体後の更地であった。

調査結果　２×３ｍの調査坑を３箇所設定した。土層の堆積状況は、表土→石山砂丘の基盤砂層である。この砂丘基盤層は既に削平された痕跡も認められた。従って基盤砂層の上層の茶褐色砂層（表土）は盛土と考えられる。調査地周辺は昭和27年の耕地整理以前は水田であったそうだが、３Tで黄褐色粘土層が盛土の下層で確認できた。この粘土層が水田時代のものであろうと考えられる。この粘土層の下層の暗茶褐色砂層は自然堆積のままであると考えられるが遺物・遺構とも検出されなかった。遺跡が当該地まで拡がってこないことが確認された。

図10　調査地位置図（S＝1/10,000）

図11　調査坑配置図（S＝1/1,500）

写真11　調査地（南～）

写真12　3T東壁土層堆積状況（目盛の50～60cm辺りが粘土層）

3　前山遺跡範囲等確認調査（表2－3）

調 査 地：北山字前山77ほか　　調査面積：18㎡（調査対象面積267.5㎡の約6.7％）

調査期間：平成16年５月19日　　調査担当：朝岡政康

遺跡の概要　前山遺跡は亀田砂丘（新砂丘Ⅰ）後列の砂丘列南斜面に立地する。周知範囲は約19,100㎡である。昭和42年頃の砂取りで砂丘が削平された際遺物が出土した。昭和61年の試掘調査で砂丘上に堆積した粘土層中に柱穴状の遺構が検出され、南端付近には遺構が残存していることが明らかとなった。

調査に至る経緯　資材置場の建設計画地が前山遺跡に隣接しているため、文化財保護法に基づき発掘届が提出された。前山遺跡は上記のように南端部に遺跡が存在する可能性が高いため範囲等確認調査を実施し、遺跡の内容を確認することとなった。

調査結果　調査は２×３ｍの調査坑を３箇所設けた。２Tで地表面下0.8ｍほど黒褐色砂層が確認された。その下層は灰褐色砂層で亀田砂丘の基盤層と考えられる。黒褐色砂層の上層は灰色～暗灰色粘土層であり、昭和61年調査時の柱穴状遺構はこの粘土層で確認されたものと考えられる。１T及び３Tでは黒褐色砂が地表面下２ｍほどに深くなっており、急激に砂丘が埋没していることが確認された。黒褐色砂層及び上層の粘土層を注意深く調査したがどの調査坑からも遺物・遺構は検出されなかった。前山遺跡は当該地まで拡がっていないことが確認された。

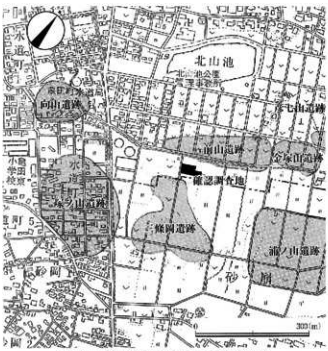


図12　調査地位置図（S＝1/10,000）

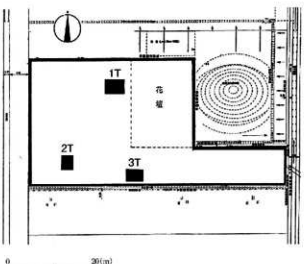


図13　調査坑配置図（S＝1/800）

写真13　調査地（南東～）

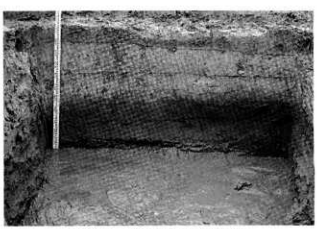


写真14　2T南壁土層堆積状況

4　小丸山遺跡範囲等確認調査（表2－4）

調 査 地：直り山字小丸山235ほか　　調査面積：９㎡（調査対象面積166㎡の約5.4％）

調査期間：平成16年11月11日　　調査担当：諫山えりか　調査員：朝岡政康

遺跡の概要　小丸山遺跡は亀田砂丘（新砂丘Ⅰ）後列の小砂丘上に立地する。周知範囲は約17,000㎡である。昭和61年に住宅団地造成計画に伴う分布調査で発見され、翌61年に約5,200㎡が発掘調査され、平安時代の集落跡を中心とした遺跡であることがわかった。

調査に至る経緯　小丸山遺跡の周知範囲内である当該地で住宅が建設されることとなったため、遺跡の内容を確認するために調査を実施することとなった。平成４年に当該地の隣接地において、同じく住宅建設に伴う確認調査を行っている。この調査では遺物が検出され、遺物包含層の存在も確認されている。調査地の現況は竹林伐採後の更地であった。

調査結果　1.5×２ｍの調査坑を1箇所（1T）と1.5×４ｍの調査坑を１箇所（2T）を設定し調査した。調査地は2Tから1T方向に低くなっており、約0.5mほどの比高差がある。土層の堆積状況は表土下に砂混じり粘土層があり、その下層に暗褐色砂、さらに下層に砂丘基盤層と考えられる黄褐色砂が確認された。1Tでは地表面下約0.5mほどで遺物が出土し、2Tでは地表面下約１ｍほどから遺物が出土した。どちらも暗褐色砂上層の灰色～暗灰褐色砂混じり粘土層から出土しており、この層が遺物包含層と考えられる。暗褐色砂層を注意深く調査したが遺構は検出されなかった。出土した遺物は大半が平安時代の土師器椀・土師器小甕や須恵器坏・須恵器甕であった。

調査の結果、平成４年の確認調査とほぼ同様の調査結果が得られ、当該地が小丸山遺跡の範囲に含まれることが確認された。住宅建設は盛土を施しそれから建設されることから、現地表面には掘削が及ばないので遺跡の保護上問題ないと考えたが、盛土の擁壁建設時に現地表面を若干掘削するとのことだったので、12月６日に工事立会を行い、遺跡に影響がなかったことを確認した。

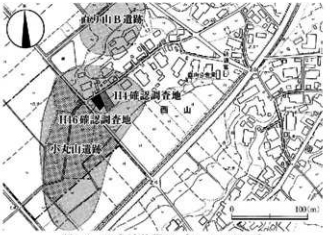


図14　調査地位置図（S＝1/5,000）

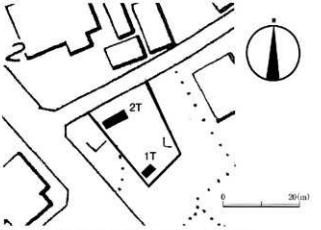


図15　調査坑位置図（S＝1/1,000）

写真15　調査地（北西～）

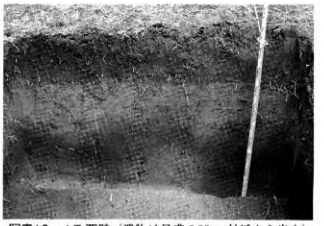


写真16　１Ｔ西壁（遺物は目盛の80cm付近から出土）

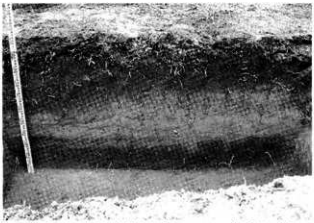


写真17　2T北壁（遺物は1盛の40～50cm付近から出土）

写真18　出土遺物

5　俵柳地区試掘調査（表2－5）

調　査　地：俵柳430番1ほか　　調査面積：24㎡（調査対象面積46,850㎡の約0.05％）

調査期間：平成16年6月17・18・21日　　調査担当：詠山えりか　　調査員：渡邊ますみ

調査地の概要　調査地は鳥屋野潟南西部端に位置する。鳥屋野潟の南東部には新砂丘Ⅱが延びてきており、この砂丘上には石仏山遺跡など7遺跡が所在する。また、鳥屋野潟の北西方面には女池砂丘（新砂丘Ⅱ）が延びており鳥屋野遺跡など6遺跡が所在する。調査地の現況は盛土された更地と駐車場とがあり、更地部分で調査を実施した。

調査に至る経緯　当該地は新市民病院の建設予定地であるが、地中深くに埋没した砂丘の存在と、その砂丘上に立地する遺跡の存在が考えられたので、事業に先立ち試掘調査を実施し遺跡の有無を調査することとなった。

調査結果　事業地のボーリング調査結果から地表面下約2～3mほどは盛土されていることが事前に分かっていたので、一辺12mの調査坑を設定し盛土を除去した。盛土除去後重機を下ろして旧地表面上に1×3mの調査坑を設定した。盛土掘削時から湧水し調査は困難であった。どの調査坑も旧地表面下2～2.5mほどは粘土層であった。2Tのみ暗灰色砂層を確認できたが、この砂層の下層はまた粘土層であった。土層の堆積状況から、当初予想していたような埋没砂丘や遺跡が立地するような地盤は確認できなかった。遺構・遺物も検出されなかった。当該地で新たな遺跡の発見はされなかった。

図16　調査地位置図（S＝1/10,000）

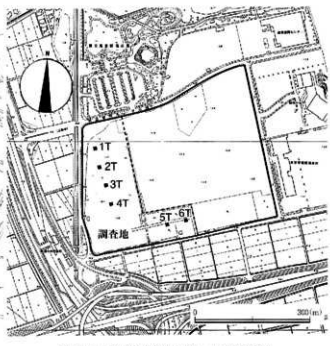


図17　試掘坑位置図（S＝1/10,000）

写真19　2T調査状況

写真20　2T土層堆積状況

6　赤塚地区試掘調査（表2－6）

調 査 地：山崎字下り1237番ほか　　調査面積：18㎡（調査対象地約690㎡の約2.6％）

調査期間：平成16年6月25日　　調査担当：朝岡政康　　調査員：渡邊ますみ

調査地の概要　当該地は砂丘（新砂丘Ⅲ）地である（1987国土地理院1：25,000　土地条件図）。現在遺跡の存在は確認されていないが、付近に赤塚神明社遺跡や屋敷裏遺跡など遺跡が多く所在する地域である。調査地の現況は更地部分と舗装された駐車場部分とがあり、更地部分で調査を実施した。

調査に至る経緯　当該地で野菜等の集出荷場の建設計画があり、上述したように遺跡が多く所在する地域であることから、事業者の協力を得て事業に先立ち遺跡の有無について試掘調査を実施することとなった。

調査の方法と調査結果　3×3ｍの試掘坑を2箇所設定した。地表面下2ｍほどは盛砂であった。この盛砂層の下層に灰黄色～暗褐色の砂質土層が確認されたが、ビニールや現代の陶器片など多く含んでいた。さらに下層に黄灰色砂層が確認された。この黄灰色砂層は砂丘形成基盤層と考えられる。調査の結果、遺構・遺物とも発見されず当該地が遺跡ではないことが確認された。

図18　調査地位置図（S＝1/10,000）

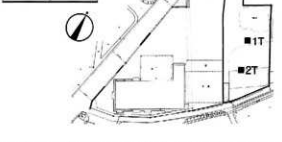


図19　試掘坑配置図（S＝1/2,000）　太枠内：調査対象地

写真21　調査地（北～）

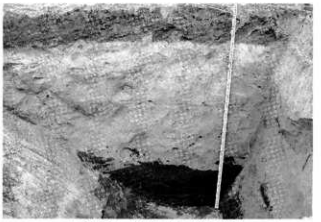


写真22　1T南壁土層堆積状況

7　牡丹山地区試掘調査（表2－7）

調 査 地：牡丹山５丁目447番９ほか　　調査面積：1.6㎡（調査対象面積約260㎡の約0.6％）

調査期間：平成16年７月２日　　調査担当：謙山えりか

調査地の概要　調査地は牡丹山砂丘（阿賀野川以東新砂丘Ⅱ－４列に対比される）上に位置する。調査地の現況は荒蕪地であった。

調査に至る経緯　調査地は市道出来島・上木戸線の予定地である。平成15年に同法線内で試掘調査を行っており、今年度はその続きである。上記のように事業予定地は遺跡が多く所在する新砂丘Ⅱ上ということで未発見の遺跡が存在する可能性が考えられたので、市の事業課の協力を得て、試掘調査を実施することとなった。

調査結果　１×0.8mの試掘坑を２箇所設定し、人力掘削にて調査を行った。地表面下0.5mほどまでは砕石が入る盛砂層であった。その下層に砂丘形成基盤層が確認された。調査の結果は昨年と同様、砂丘頂部は既に削平されていることが確認された。遺跡は発見されなかった。

図20　調査地位置図及び試掘坑配置図（S=1/10,000）　撮影：H15年度調査地

写真23　2T東壁土層堆積状況

8　小針地区試掘調査（表2－8）

調 査 地：小針４丁目35番１ほか　　調査面積：30㎡（調査対象面積約4,499㎡の約0.67％）

調査期間：平成16年９月６日　　調査担当：謙山えりか

調査地の概要　調査地は西川北側の自然堤防である（1987国土地理院１：25,000　土地条件図）。小針地区は過去市街化が急速に進んだ地域であり、遺跡の調査がほとんど行われていないため、遺跡の所在状況や土層の堆積状況がほとんど分かっていない地域である。調査地の現況は更地であった。

調査に至る経緯　当該地で民間事業者による宅地分譲の計画があり、上述したような理由から試掘調査の協議を行ったところ、事業者の協力を得て、調査を実施することとなった。

調査結果　２×３mの試掘坑を５箇所設定した。調査地は南側から北側に向かって傾斜していた。南側では、以前当該地がガラス工場だったときのガラが多量に埋められ、80cmほど盛土されていた。盛土の下は青灰色のシルト～粘土が堆積しており、この層が西川の自然堤防であると考えられる。遺構・遺物とも発見されなかった。当該地で遺跡は発見されなかった。

図21　調査地位置図（S=1/10,000）

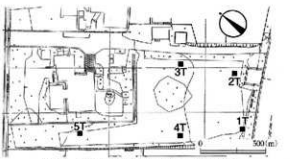


図22　試掘坑位置図（S=1/3,000）

写真24　3T南壁土層堆積状況

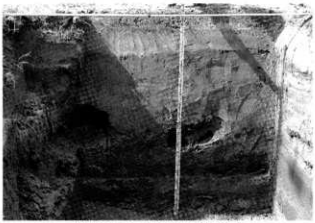


写真25　5T北壁土層堆積状況

9　亀貝地区試掘調査（表2－9）

調 査 地：新通地先1021ほか　　調査面積：3㎡（調査対象面積約1,000㎡の約0.3%）

調査期間：平成16年10月12日　　調査担当：諫山えりか

調査地の概要　当該地は海岸平野部または三角州にあたる（1987国土地理院 1：25,000　土地条件図）。調査地の現況は農道であった。

調査に至る経緯　当該地の農道が整備されることとなり、市の事業課に試掘調査について協議をし、協力を得て、調査を実施することとなった。

調査結果　0.5×2ｍの試掘坑を3箇所設定した。調査地は横幅が狭く開口部を広く採ることができなかった。土層の堆積状況は上層から盛土→シルト層→粘土層であった。西川の氾濫による洪水性堆積と考えられる。調査地から遺跡は発見されなかった。

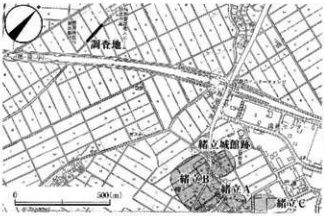


図23　調査地位置図（S＝1/20,000）

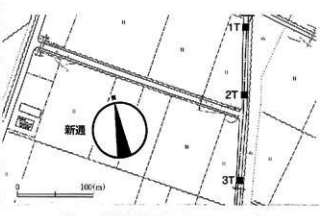


図24　試掘坑位置図（S＝1/5,000）

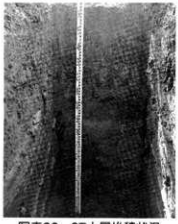


写真26　2T土層堆積状況

写真27　3T土層堆積状況

10　鳥原地区試掘調査（表2－10）

調 査 地：鳥原地先2292ほか　　調査面積：5㎡（調査対象面積3,120㎡の約0.002％）

調査期間：平成16年10月13日　　調査担当：諫山えりか

調査地の概要　調査地は海岸平野（沖積平野）である（1987国土地理院 1：25,000　土地条件図）。鳥原地域では昨年度黒埼市民会館（仮称）建設予定地において試掘調査を実施したところ、河川由来の砂層から木簡に良く似た形状の木製品が検出されている。この木製品は他所からの流入であると考えられる。調査地の現況は農道であった。

調査に至る経緯　当該地の農道が整備されることとなった。昨年度の調査結果を踏まえて市の事業課と試掘調査について協議をし、協力を得て調査を実施することとなった。

調査結果　1×1mの試掘坑を5箇所設定した。土層の堆積状況は砕石層→粘土層もしくはシルト混粘土層であった。粘土層は厚く堆積している。2Tでは粘土層の下層から細砂層が確認できた。土層の堆積状況からこの粘土層は河川の氾濫によるものと考えられる。遺構・遺物とも発見されず、当該地で遺跡の発見はされなかった。

図25　調査地位置図（S＝1/25,000）

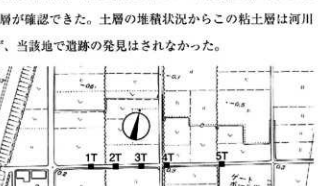


図26　試掘坑位置図（S＝1/4,000）

写真28　調査地（北～）

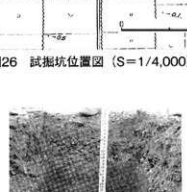


写真29　2T東壁土層堆積状況

11　木工新町地区試掘調査（表2－11）

調 査 地：木工新町426番ほか　　調査面積：2㎡（調査対象面積2,102㎡の約0.001％）

調査期間：平成16年10月14日　　調査担当：諫山えりか

調査地の概要　当該地は旧河道（旧阿賀野川もしくは旧通船川）と考えられている（1987国土地理院 1：25,000　土地条件図）。当該地の現況は水田であった。

調査に至る経緯　当該地で共同住宅の建設計画が持たれた。当該地の地理的条件は上記の通りであるが、東側はすぐに新砂丘Ⅱ列が来ており、埋没砂丘上の遺跡の存在が予測された。そこで試掘調査の実施について事業者と協議し、協力を得て調査を実施した。

調査方法と調査結果　1×1mの試掘坑を2箇所設定した。土層の堆積状況は上から、水田耕作土→粘土層→細砂層であった。この細砂層は川砂と思われ、当該地は旧河道内であったと考えられる。調査地からは遺跡の発見はされなかった。

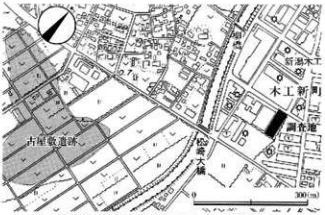


図27　調査地位置図（S＝1/10,000）

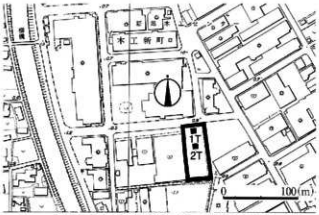


図28　試掘坑位置図（S＝1/5,000）

12　大淵地区試掘調査（表2－12）

調 査 地：大淵地内　　調査面積：40㎡（調査対象面積4,722の約0.8％）

調査期間：平成16年11月29日～12月4日　　調査担当：朝岡政康

調査地の概要　調査地は阿賀野川左岸の自然堤防の北縁にあたる（1987国土地理院1：25,000　土地条件図）。この自然堤防上には大淵遺跡や江口館跡などが所在する。当該地は大淵遺跡から北に約400mの場所である。調査時は旧水田に造成された野球グランドであった。

調査に至る経緯　当該地は市立大淵小学校の移転予定地である。平成9・10年に大淵遺跡の一部について本格調査が行われており、調査の結果、平安時代中頃の遺跡が良好な状態で残っていることが確認された。このことから大淵遺跡が立地する自然堤防上にはまだ未発見の遺跡が存在する可能性が考えられた。事業課に試掘調査の実施について協議をし、協力を得て、調査を実施した。

調査結果　当該地はグランド建設時に1.5mほど盛土されているので、先ず4×4m程度で広く掘削し盛土を除去した。盛土除去後は旧地表面に2×2mの試掘坑を設け掘削した。このような試掘坑を10箇所設定した。土層の堆積状況は上から水田耕土→灰白～暗灰色粘土→青灰色シルト混粘土→青灰色砂であった。最下層の砂層は砂の粒子が細かく、砂丘砂と思われる。この砂層が河川に由来するものか、元々の砂丘砂のどちらであるのかは、調査範囲のデータだけでは判別付かなかった。今後周辺の調査履歴が蓄積されれば判明するものと考えられる。遺構・遺物とも確認されなかった。当該地には遺跡がないことが確認された。

図29　調査地位置図（S＝1/10,000）

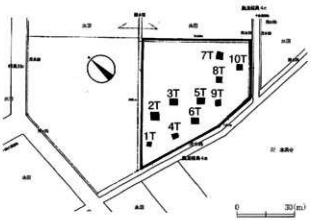


図30　試掘坑位置図（S＝1/1,500）

写真30　調査地（北～）

写真31　6T南壁土層堆積状況

13　逢谷内地区試掘調査（表2－14）

調 査 地：逢谷内４丁目54番４ほか　　調査面積：30㎡（調査対象面積約4,573㎡の約0.7％）

調査期間：平成17年１月19日　　調査担当：詠山えりか　調査員：朝岡政康

調査地の概要　当該地は砂丘間低地考えられている（1987国土地理院１：25,000　土地条件図）。当該地の現況は更地であった。

調査に至る経緯　当該地で宅地分譲のための造成計画が持たれた。当該地の地理的条件は上記の通りであるが、北側及び南側は新砂丘Ⅱ列が来ており、埋没砂丘上の遺跡の存在が予測された。そこで試掘調査の実施について事業者と協議をし、協力を得て調査を実施した。

調査方法と調査結果　２×３ｍの試掘坑を5箇所設定した。土層の堆積状況は上から、盛砂→粘土層→シルト層→ガッボ層→細砂層であった。調査地からは遺跡の発見はされなかった。

写真32　3T土層堆積状況

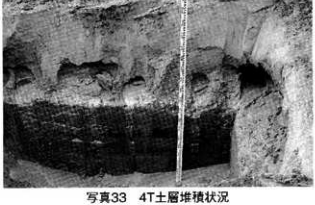


写真33　4T土層堆積状況

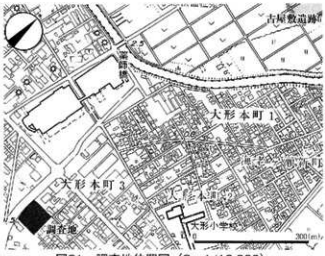


図31　調査地位置図（S＝1/10,000）

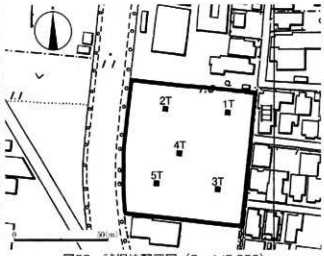


図32　試掘坑配置図（S＝1/2,000）

14　鳥屋野地区試掘調査（表2－15）

調査地：鳥屋野２丁目643番２ほか　　調査面積：約７㎡（調査対象面積約4,130㎡の約0.17％）

調査期間：平成17年１月20日　　調査担当：諫山えりか　調査員：渡邊ますみ

調査地の概要　当該地は沖積地（旧信濃川の流路）と考えられている（1987国土地理院１：25,000　土地条件図）。現在は盛土されており更地であった。

調査に至る経緯　当該地で分譲宅地建設計画が持たれた。当該地の地理的条件は上記の通りであるが、南側にはすぐに新砂丘Ⅱ列が来ており、埋没砂丘上の遺跡の存在が予測された。そこで試掘調査の実施について事業者と協議をし、協力を得て調査を実施した。

調査方法と調査結果　1.2×２ｍの試掘坑を３箇所設定した。土層の堆積状況は上から、盛砂層→灰褐色～暗青灰色砂層であった。この砂層は砂丘砂ではなく川砂と思われ、当該地は旧河道内であったと考えられる。当該地からは遺跡の発見はされなかった。

図33　調査地位置図（S＝1/10,000）

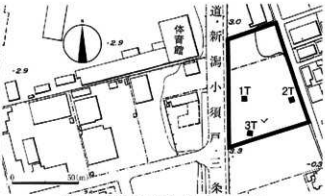


図34　試掘坑配置図（S＝1/3,000）

写真34　調査地（北～）

写真35　1T土層堆積状況

15　上木戸地区試掘調査（表2－16）

調 査 地：上木戸１丁目46番ほか　　調査面積：約６㎡（調査対象面積約2,316㎡の約0.028％）

調査期間：平成17年１月31日　　調査担当：諫山えりか　調査員：渡邊ますみ

調査地の概要　当該地は旧阿賀野川自然堤防と新砂丘Ⅱ－４列間の後背湿地と考えられている（1987国土地理院 1：25,000　土地条件図）。現況は盛土されており更地であった。

調査に至る経緯　当該地で宅地の造成計画が持たれた。当該地の地理的条件は上記の通りであるが、新砂丘Ⅱには複数の遺跡の存在が知られているので、当該地で未発見遺跡の存在する可能性が考えられた。そこで試掘調査の実施について事業者と協議をし、協力を得て調査を実施した。

調査方法と調査結果　２×３ｍの試掘坑を２箇所設定した。土層の堆積状況は上から、砕石・盛砂層→暗青灰色砂層であった。この砂層は砂丘砂ではなく川砂と思われ、当該地は旧河道もしくは低湿地であったと考えられる。いずれの試掘坑も地表面下0.7～0.9ｍほどから湧水したため、壁面の崩壊が激しく深く掘削することができなかった。当該地から遺跡の発見はされなかった。

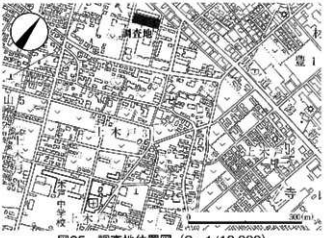


図35　調査地位置図（S＝1/10,000）

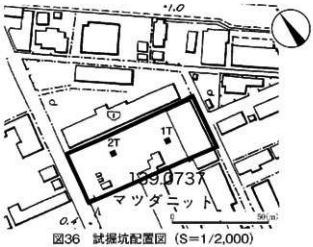


図36　試掘坑配置図（S＝1/2,000）

写真36　調査地（西～）

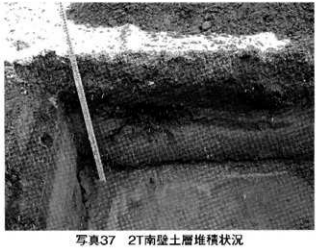


写真37　2T南壁土層堆積状況

16　河渡地区試掘調査（表2－17）

調 査 地：河渡本町巳883番17ほか　　調査面積：348㎡（調査対象面積約20,000㎡の約1.8%）

調査期間：平成17年2月15～18日　　調査担当：朝岡政康　調査員：渡邊ますみ

調査地の概要　調査地は砂丘地であると考えられている（1987国土地理院 1：25,000　土地条件図）。また『新潟市史自然編』（新潟市1991）では新砂丘Ⅲ列としている。新砂丘Ⅲは Ⅲ－1～Ⅲ－3列の3列が確認されており、Ⅲ－1列上には奈良・平安時代の遺跡が、Ⅲ－2列上には中世遺跡の存在が確認されている。調査地の周囲にも宮浦遺跡（35）や溜池遺跡（36）が存在している。両遺跡とも奈良・平安時代の遺物が周辺で採取されたらしい。宮浦遺跡については平成10年に隣接地において範囲等確認調査を実施しており、遺跡は発見されなかったが砂丘基盤層の直上に黒色砂層の堆積を確認している。調査地は荒蕪地であった。また一番低い場所の標高は1.6m前後、一番高い場所の標高は9.3mほどであり、比高差7.7mで大きな砂山状の地形である。

調査に至る経緯　当該地で宅地の造成計画があり、上記のような土地条件や宮浦遺跡範囲等確認調査の結果から、当該地に未発見の遺跡の存在が考えられた。そこで事業者と協議をし、協力を得て試掘調査を実施することとなった。

調査の方法と調査結果　2×3mの試掘坑を58箇所設けた。土層の堆積状況は概ね表土→茶褐色砂層→黄灰色砂層→灰白色砂層であった。黄灰色砂層及び灰白色砂層は新砂丘Ⅲの形成基盤層と考えられる。宮浦遺跡範囲等確認調査では黄灰色砂層の上層に土壌化した砂層と考えられる黒色砂層が確認された。調査地の南側の一番低い場所で黄灰色砂層の下層にこの黒色砂層が存在しているかどうか深く掘削したが、確認できなかった。いずれの試掘坑からも遺構・遺物はされなかった。このことから当該地に遺跡がないことが確認された。また一部で確認された茶褐色砂層は近～現代のある時期の地表であると考えられるが、大きく攪乱されていることが多く、調査地全域で層位的に確認できる状態でなかった。

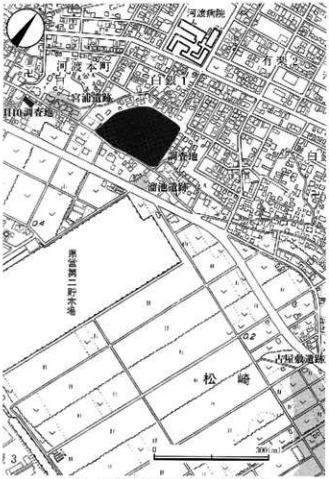


図37　調査地位置図（S＝1/10,000）

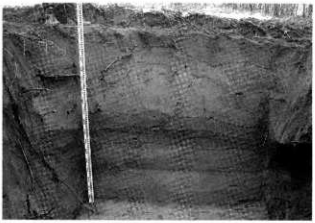


写真38　22T南壁（目盛の50cm付近に腐植土層がある）

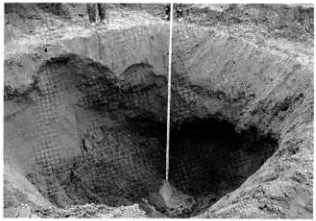


写真39　58T西壁土層堆積状況

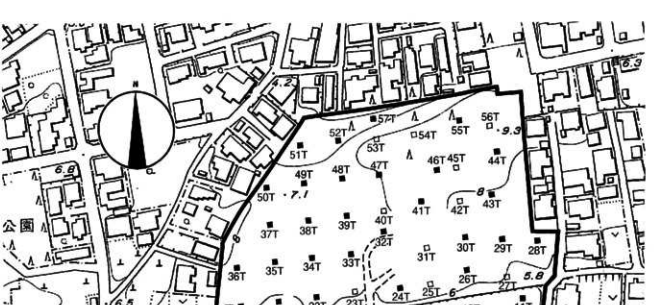


図38　試掘坑位置図（S＝1/2,000）　■：調査したもの　□：調査しなかったもの

17　城山遺跡工事立会・範囲等確認調査（表2－32）

調 査 地：笹山字山中境ほか　　調査面積：25㎡（調査対象面積6,000㎡の約0.001％）

調査期間：平成17年１月27日～３月31日　　調査担当：諫山えりか

調 査 員：渡邊ますみ　廣野耕造　朝岡政康　森良子

遺跡の概要　城山遺跡は亀田砂丘（新砂丘Ⅰ）前列の残丘状の小砂丘上に立地する。周知範囲は約54,000㎡である。昭和43年に、開田に伴う砂丘の削平により平安時代の土師器や須恵器、中世の舶載陶磁器等が出土したとされている（『大江山地区の遺跡』1987　新潟市教育委員会）。平成８年度に県営圃場整備事業に伴い約350㎡が発掘調査され、縄文・平安時代を中心とした集落跡が確認された。

調査に至る経緯　今回の公園造成に伴う範囲等確認調査を平成13年度に実施した。この調査結果を踏まえ、公園建設は遺跡を保存する方向で設計が行なわれた。公園造成は平成15年度から着手されており、今年度は図39に図示した部分の造成を平成17年１月から行うことになった。当初立会を予定した場所は、①法面の角度をゆるくし、低木を植栽するため掘削される部分と、②埋設管敷設のため幅・深さとも１ｍ以上の掘削が行われる地点である。①について、工事に立会ったところ、掘削中に土器が確認されたため、事業者および県教育委員会に連絡し、包含層の残存状況を確認することとした。その後、平成13年度確認調査を行った時点では民地であったため試掘坑を設定していなかったことがわかり、その部分について保存を前提とした確認調査を行った（図40）。法面で遺物包含層が露出した範囲を図40に、包含層の堆積状況を図41・42に示した。

この結果をもとに設計変更可能か問い合わせたところ、①法面部分は盛土保存で合意、②園路部分の設計変更は工事全体に影響が出るため、できるだけ避けたいとの方針が示されたため、園路部分にかかる範囲を追加調査した。この調査の結果、園路部分はすでに今回の工事以前の掘削で砂丘基盤砂層の黄褐色層まで及んでいることが確認されたため、園路は予定どおり着手される見通しとなった。

調査日	調査内容	結果
1月27～29日・2月3・4日	法面部分立会・確認調査	遺物包含層と古墳時代前期の遺構を確認した。埋め戻して盛土保存。
2月8日	園路予定部分確認調査	過去の削平により遺物・遺物包含層・遺構は確認されなかった。工事継続。
2月18・19日	下水道埋設管敷設立会	過去の削平により遺物・遺物包含層・遺構は確認されなかった。工事継続。
2月24日	植栽（高木）立会	過去の削平により遺物・遺物包含層・遺構は確認されなかった。工事継続。
3月中旬（予定）	法面部分植栽（低木）立会	

調査結果　法面に、東西方向に長い調査坑を6箇所と南北方向の調査坑を1箇所設定した。3Tのみ重機を用い、それ以外は人力で掘削した。土層は盛土、黒褐色砂層、暗褐色砂層、黄褐色砂層の順で堆積していた（図42）。暗～黒褐色砂層が遺物包含層である。

遺構は、性格不明遺構（SX）が2基検出された。SX1から、径15cm程度の角礫2点と古墳時代前期の土器が出土し、少なくとも甕を2個体確認した。長軸1.20m、短軸1.15m、深さ0.28m以上の土坑の可能性がある。露出した部分を半裁してサブトレンチを設定して調査したが、遺構確認面の上部が削平されていたため、遺構の深さは推定である。SX2は、1Tの北壁にかかって発見された。長軸0.8m以上、短軸0.4m以上、深さ0.1m以上と推定され、時期は不明である。遺構外出土遺物は、古墳時代前期の土師器破片（写真44）と、縄文時代中期前葉と思われる深鉢破片（写真45　1・2）、須恵器坏破片、珠洲焼甕破片（写真45　3）が出土した。

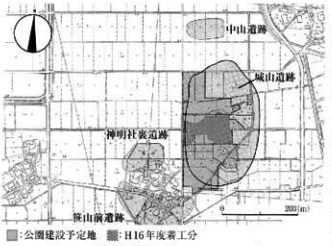


図39　調査地位置図（S＝1/10,000）

写真40　調査遠景（北西から）

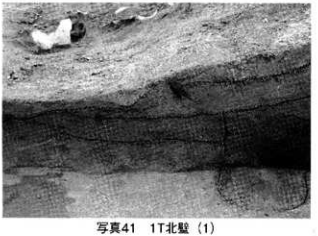


写真41　1T北壁（1）

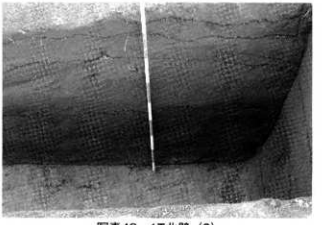


写真42　1T北壁（2）

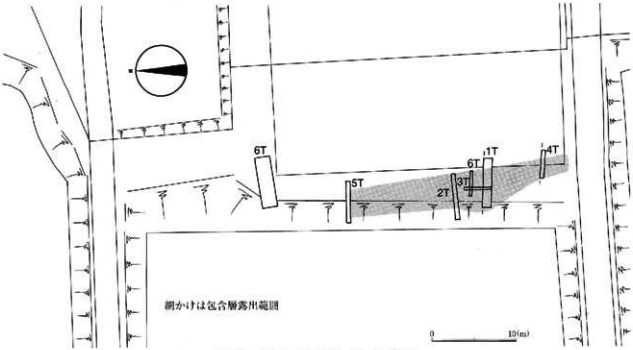
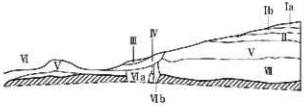


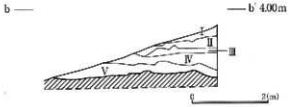
図40　トレンチ設定図（S=1/300）



Ⅰ　やや黒ずんだ暗褐色土　灰色粘土(a>b)　盛土
Ⅱ　暗褐色土　包含層
Ⅲ　黒褐色土　炭化粒を含む　包含層
Ⅳ　灰黒褐色土　包含層
Ⅴ　やや灰色がかった暗褐色土　炭化粒含む　包含層
Ⅵ　暗褐色土　しまり(a>b)　遺構
Ⅶ　暗黄褐色土　しまり強　包含層？
Ⅷ　暗褐色土

0　2(m)

図41　1T土層堆積状況図（S=1/50）



Ⅰ　やや黒ずんだ暗褐色土　灰色粘土含む　盛土
Ⅱ　黒褐色土　炭化粒含む　包含層
Ⅲ　黄褐色砂を含む暗褐色土
Ⅳ　やや灰色がかった暗褐色土　包含層
Ⅴ　暗褐色土　しまり有　包含層か

図42　4T土層堆積状況図（S=1/50）

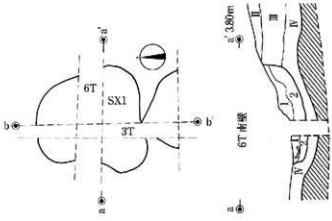


図43土層注記
Ⅰ　黒褐色土　炭化粒多く含む　遺構か
Ⅱ　黒褐色土　炭化粒含む　包含層
Ⅲ　やや灰色がかった暗褐色土　包含層
Ⅳ　暗黄褐色土　しまり有　包含層か

1　やや灰色がかった黒褐色土　炭化粒含む　やや粘性有　しまり有
2　黒ずんだ暗褐色土　しまり有
SX1覆土

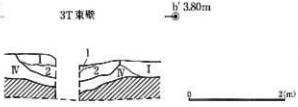


図43　SX1検出状況（S=1/40）

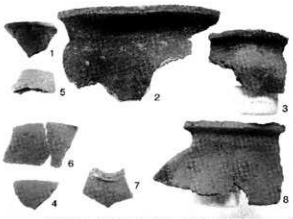


写真44　古墳時代前期の土器（約½）

写真45　縄文土器・珠洲焼甕

抄　録

ふりがな	へいせいじゅうろく（にせんよん）ねんどしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平成16（2004）年度　市内遺跡発掘調査報告書
編著者名	朝岡政康　謙山えりか　森　良子
編集機関	新潟市総務局国際文化都歴史文化課　埋蔵文化財センター
所在地	〒950-3101 新潟市太郎代2554番地　電話（ファクシミリ兼）：025（255）2006　電子メール：maizo@city.niigata.lg.jp
発行年月日	平成17年3月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度/分/秒	東経 度/分/秒	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	特記事項
東岡遺跡	新潟県新潟市茎岡谷	15201	114	37 52 53	139 07 38	20040412 ～ 20040423	240	民間開発	古墳時代前期の遺物・遺構出土。遺跡の北西部の範囲が確定した。
鏡ヶ尾場竹遺跡	新潟県新潟市鏡が島場	15201	62	37 54 16	139 07 11	20040426	18	店舗建設	遺跡係らず。
満山遺跡	新潟県新潟市北山	15201	11	37 52 06	139 07 32	20040519	18	資材置き場改修	遺跡係らず。
小丸山遺跡	新潟県新潟市盛り山	15201	88	37 53 06	139 08 34	20041111	9	個人住宅建設	平安時代の遺物出土。工事による遺跡への影響がないことを確認。
鉄櫛地区	新潟県新潟市俵櫛	15201	－	37 52 17	139 02 39	20040617 20040618 20040621	24	新市民病院建設	遺跡なし。
赤塚地区	新潟県新潟市山崎	15201	－	37 49 12	138 53 00	20040625	18	農作物集出荷場建設	遺跡なし。
牡丹山地区	新潟県新潟市牡丹山	15201	－	37 55 02	139 06 09	20040702	1.6	道路建設	遺跡なし。
小針地区	新潟県新潟市小針	15201	－	37 52 52	139 00 05	20040906	30	宅地分譲	遺跡なし。
亀貝地区	新潟県新潟市新通	15201	－	37 51 29	138 58 34	20041012	3	農道整備	遺跡なし。
鳥原地区	新潟県新潟市鳥原	15201	－	37 50 59	139 00 36	20041013	5	農道整備	遺跡なし。
末工新町地区	新潟県新潟市末工新町	15201	－	37 55 55	139 07 36	20041014	2	集合住宅建設	遺跡なし。
矢潟地区	新潟県新潟市矢潟	15201	－	37 53 47	139 08 38	20041129 ～ 20041204	40	学校建設予定地	遺跡なし。
著荷谷地区	新潟県新潟市著荷谷	15201	－	37 52 55	139 07 35	20041203 ～ 20041210	174	民間開発	遺跡なし。
逢谷内地区	新潟県新潟市逢谷内	15201	－	37 55 10	139 07 09	20050119	24	宅地分譲	遺跡なし。
高原野地区	新潟県新潟市高原野	15201	－	37 53 10	139 01 19	20050120	7.2	宅地分譲	遺跡なし。
上木戸地区	新潟県新潟市上木戸	15201	－	37 55 17	139 06 15	20050131	6	民間開発	遺跡なし。
河渡地区	新潟県新潟市河渡	15201	－	37 55 56	139 06 40	20050215 ～ 20050218	348	宅地造成	遺跡なし。
城山地区	新潟県新潟市笹山	15201	－	37 52 55	139 07 35	20050126 ～ 20050204	—	公園建設	古墳時代の遺物・遺構出土。遺跡に影響がないように工法を調整。

平成16（2004）年度
市内遺跡発掘調査報告書

発行日　平成17年３月18日

発　行　新潟市埋蔵文化財センター
〒950-3101 新潟市太郎代2554番地
電話・ＦＡＸ　025（255）2006
電子メール　maizo@city.niigata.lg.jp

印　刷　㈱太陽印刷所
〒950-0985 新潟市和合町２丁目４番18号
電話　025（382）7651